

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年5月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4692600010
法人名	社会福祉法人 恵愛会
事業所名	グループホーム このゆびと一まれ
所在地	鹿児島県南九州市知覧町永里4577番地2 (電話) 0993-83-1015
自己評価作成日	令和2年4月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和2年4月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・運営理念に基づき、入居様が穏やかな笑顔で過ごせるように様々な不安や心配事を訴えてきた時に寄り添うことができるように努めている。
 ・不適切なケアやスピーチロックが無いように、定期的に身体拘束適正化検討委員会を開き、日頃のケアを振り返っている。
 ・協力医療機関との報・連・相を密にし、入居者の状態観察を行い、小さな変化に早めに対応が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は法人母体の特別養護老人ホームやデイサービスセンター等が隣接し、災害時の協力関係が整っている。
 ・協力医療機関とは24時間連携体制が整っており、定期的な往診や訪問看護師との連携も図り、適切な医療が受けられる。
 ・地域の文化祭に作品を展示したり、二日市見物など、地域行事に参加している。法人行事の夏祭りなどに多くの地域の人々や家族・有償ボランティアの参加があり、地域との交流の場にもなっている。管理者は、キャラバンメイトの活動にも参加している。今後、地域資源を把握し、積極的に活用と交流を進めていく方向である。
 ・管理者や職員間のコミュニケーションが良く、些細なことでも「気づき」を大切にしている。利用者が家族や自宅のことを心配して落ち着かないときは、個別外出で自宅や住んでいた地域に出かけたりして、利用者が笑顔でその人らしい生活ができるように取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は全職員に浸透しており、理念に基づいたケアを提供するように心掛けている。また、ミーティング等でケアの質を問う時には、理念に立ち返るようにしている。	理念を玄関やホールに掲示し、パンフレットにも記載している。ミーティング等で振り返り、年1回全体会議で確認しながら、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な地域との交流は難しいが、地域行事への参加や個別の外出支援を通して地域交流ができるよう努めている。	地域の文化祭に作品を出展したり夏祭りや二日市見物など、積極的に参加している。中学生の職場体験学習・高校生の実習・保育園児との交流・有償ボランティアの受け入れも行い日常的に交流している。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	介護科の実習生や中学生の職場体験を受け入れ、認知症への理解や接し方について学んでもらっている。入所申込や見学に来られたご家族への困り事や心配事についての助言をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>状況報告や事故報告、運営に関する相談や報告をおこない、出席者から頂いた助言や意見はミーティングで共有し、サービスに活かしている。</p>	<p>会議は定期的開催している。事業所の状況や外部評価結果報告・ヒヤリハット・事故報告などを行い、委員からも多くの助言や提案がある。そこでの意見を職員で話し合い、大雨時の対応などに活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議には必ず出席され、助言や情報提供を頂いている。</p>	<p>市の担当者とは、必要に応じて情報を交換して連携を深めている。運営推進会議を通して協力関係もできている。キャラバンメイト活動に参加したり、市主催の研修会にも積極的に参加している。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1度、研修を年2回開催し、身体拘束やスピーチロック、施錠、センサー類の使用など日々のケアを検討し、不適切なものは廃止できるように努めている。</p>	<p>身体拘束適正化検討委員会で、3ヶ月に1回の研修会と年2回勉強会を行っている。対象となる事例検討などで職員の共通認識を図っている。言葉による拘束についても日々確認し配慮している。日中の玄関の施錠はせず、見守りや職員間の連携で安全な暮らしを支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職場内研修をおこなうとともに、日々の支援の中に虐待に繋がる恐れがある不適切なケアがないか振り返っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職場内研修を計画し、理解に努めている。現在、一名が日常生活自立支援事業を利用され、定期的に支援を受けている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に関する説明の際は、わかりやすい言葉を選んで説明し、不安や疑問が解消され、納得していただけるように努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>全職員が意見や要望を出し易い関係作りに努めている。また、推進会議だけでなく、面会の際にも意見交換を行い、運営やサービスに反映させるように努めている。</p>	<p>利用者からは日常生活の中で表情や会話の中から思いを把握している。家族からは、面会や電話・受診同行・運営推進会議等が意見を聞く良い機会となっている。出された意見等を職員で話し合い、新聞の個人購読や週刊誌・本等を届けてもらうなど、利用者の楽しみに反映している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者は職員全体、個人が意見や提案を述べやすい雰囲気作り、関係作りに努めている。代表者は会議時や事業所訪問時に管理者、職員から様々な意見や要望を聞き取るように努めている。</p>	<p>管理者は、職員が運営に関する事や個人的な事を話しやすい雰囲気作りに努め、職員との距離を近くなるようにしている。ミーティング等で職員の意見や提案を聞き、服薬を当番制として、安全に管理している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は月に2度ほど事業所を訪れ、職員一人一人に労いの声を掛けている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は職場外研修への参加や資格取得を促し、職場外研修の受講料を法人が負担し、勤務としての参加を認めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域密着型サービス事業者とのネットワークができ、情報交換や研修会、会議等での交流が増えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前からアセスメントを重ね、ニーズや要望等を把握することで信頼関係を築き、安心してホームでの生活を開始できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前からご家族への面談を重ね、ニーズや要望等を把握することで信頼関係を築き、安心してホームへ預けていただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族からアセスメントで得た情報を基に、どのような支援が必要かを見極め、サービス開始後すぐに必要な支援が提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションの深さが利用者によって差が出来ている。食事のメニューを一緒に考えたり、洗濯たたみ・盆拭き、茶碗洗いなどの手伝いをいただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所したことにより、本人と家族の関係が途切れないように外出や面会の機会を作ってもらえるように働きかけている。また、本人が不安な時は電話でお話してもらえるようお願いしている。面会や外出の機会を多く作っていただいている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の犬・猫や氏神様を心配される方がいらっしゃるので、なるべく希望があったその日に外出が出来るようにしている。餌をやったり、氏神様に手を合わせたり、庭の柿の実を採り、干し柿を作ったりしてとても喜ばれていた。友人・知人の面会も多い。	親戚や知人・友人の面会を奨励しお茶を出している。ドライブを兼ねて自宅の犬猫に餌を与えたり、氏神様に手を合わせたりしている。庭の柿を採り、干し柿を作るなど、馴染みの場所との継続的關係が途切れないように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が身体的にも心理的にも支え合い助け合っている姿が日常的にみられる。人間関係を把握して席やレクを提供している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も本人・家族が安心してスムーズに次のサービスを利用開始できるようにケアマネや相談員と連携を図っている。退所後、同敷地内の特養へ入所した利用者の様子窺いに時々行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	直接的な関りや他職員からの情報からその人が何を思いどう過ごしたいのかを汲み取れるように努めている。	日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。利用者の言葉をそのまま記録し、職員で情報を共有している。困難な場合は、家族とも相談し本人の思いに添えるように支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との話や家族からの聞き取りなどから把握するように努めているが充分とは言えない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人との直接的な関りや他の職員からの情報により状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のケアカンファレンスや3か月ごとのモニタリング時に意見交換などを通じて介護計画に反映するようにしている。	本人や家族の思いを聞き、毎月のケアカンファレンスで情報を確認し、主治医の意見も取り入れ、個々に応じた介護計画を作成している。モニタリングは3か月ごとに実施し、必要時に見直している。状況が変化した時は現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の発言や表情等の記入も心掛けて様子の把握や些細なことでも気付けば記録や情報共有を行っている。他職員による記録や情報からも計画の見直しに反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時折、必要であると思うサービスに対して周囲に相談することはあるが、導入には至らないで終わることが多い。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握や支援への取り組み方は未だ不十分であると思う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医への受診が困難になった場合は協力医療機関の訪問診療を紹介し、適切な医療を受けられるように支援している。	受診は、本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。困難になった場合は利用者や家族の希望で協力医療機関に変更し、月2回の訪問診療で対応している。他科受診は情報を提供し、家族の協力を得て支援している。月2回の健康観察など訪問看護との連携も図り、緊急時の対応など適切な医療を受けられるよう支援している。受診結果は家族と共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	排便、体重、血圧、皮膚などの観察や本人の訴えから、状態変化に早く気づき、重症化しないよう適切な医療や処方が受けられるように訪問看護師や協力医療機関の看護師に情報提供ができる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟に情報提供書を提出し、入院中は地域連携室と治療の経過や本人の状況等の情報を共有している。退院後、ホームでの生活が継続可能なように、早期退院とADLの回復を依頼している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化と看取りに関する指針を用いて説明し、同意を得ている。要介護4を目安に重度化が進んできた場合は特養への入所申込について相談・検討していただいている。	契約時に重度化や終末期に伴う対応の指針を説明し、同意を得ている。状況変化に伴い特別養護老人ホームの説明と入所申し込みについて話し合い、家族と方向性を共有できるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度、人工呼吸法、AEDの操作、窒息、火傷、骨折の初期対応について消防署による講習を受けた。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>大雨・土砂災害、火災、地震に対応する避難訓練を適時おこなっている。しかし、地域との協力体制は築けていない。</p>	<p>消防署立会いのもと年1回、法人合同で地震や火災想定避難訓練を自主で年2回、火災の夜間想定訓練を年1回、大雨・土砂災害の避難訓練も実施している。スプリンクラーや緊急通報装置を整備し防火設備は定期的に点検している。災害時の水・米・レトルトご飯・カレー・牛丼などの備蓄がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄の際には羞恥心に配慮したケアを行うように心掛け、ミーティング等で注意したことで、便失禁に驚いた声を聞かなくなった。	ミーティング等で研修を行い、日頃から誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に心がけ、職員の資質向上に取り組んでいる。入室や入浴介助・トイレ誘導・居室のポータブルトイレにカバーをかけるなど、羞恥心に対する配慮に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が思いや希望を表現し易い雰囲気作り、関係作りに努め、自己決定を急かすことなく、選択がし易いように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	人員配置上、職員の都合が優先されることもあるが、おおまかなタイムスケジュールの中で、それぞれが思い思いに生活できるよう、生活習慣や趣味を把握して支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ご自分で洋服や羽織りの選択がし易いようにタンスやクローゼットの整理・工夫を心掛けています。整髪や髭剃りなど人前に出ても恥ずかしくないように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何が食べたいか、希望を聞いてからメニューを考えることがある。頂き物の山菜や野菜の下ごしらえを一緒にしたり、茶碗洗いを手伝ってもらっている。	菜園の野菜を収穫したり、旬の食材で、利用者の嗜好に配慮し、食事形態を工夫した献立である。下ごしらえや茶碗洗い・干し柿・干し大根・梅干し作りなど、職員と一緒にいたりしている。月毎の誕生会や季節の行事食、年2回の外食など食事が楽しみなものになるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の咀嚼・嚥下状態に応じた食事形態や自助具の検討を行っている。好き嫌いやアレルギーなどに配慮し、代替品の提供もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の口腔状態や能力に応じて支援し、手直しや管理をおこなっている。また、残菌や義歯の状態確認や義歯が合っているか観察をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立した排泄ができるように、個々に合った尿取りパットを選択している。失敗した時やパット交換の時には自尊心や羞恥心に十分に配慮した支援をおこなっている。手摺りを設置し、立位が不安定な人でも、可能な限りトイレでの排泄ができるようにしている。	排泄リズムを把握し、必要に応じての声かけを行い、安全に配慮しながら、トイレでの排泄や排泄の自立を支援している。パット等の排泄用品の検討をしている。夜間ポータブルトイレ利用者もいるが、声掛けして、自立でトイレでの排泄ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を把握し、便秘にならないように医療機関と協力して下剤の調整をしている。トイレで力んでもらったり、水分や牛乳やヨーグルトを摂ってもらい、自然な排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	希望があれば毎日の入浴が可能だが、皆様一日おきでいいとのこと、一日おきの入浴になっている。人員配置上、日中のみ入浴となり、職員側のタイミングでの入浴になっている。	基本的には隔日であるが、個々の体調や希望にそって柔軟に対応している。ゆず湯や浴槽に入って入浴を楽しめるように支援している。足浴や清拭で清潔保持にも対応している。入浴を拒む利用者には声かけや時間調整など職員間で連携して、状況改善に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間の余暇時間は様々な活動に取り組んでもらっている。寝付きの悪い方は少量の睡眠導入剤を服用し、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬忘れのミスが多かったが職員が内服前に気付き、内服漏れを防いでいた。職員が担当制で配薬することで薬に対する意識が変わった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>季節の花や制作物を飾ることで季節感を演出している。また、イベントごとに行事食を作っている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外出を好まない入居者の方が多く、日常的な外出はないが、「庭の柿を取りに行きたい。」「家の猫に会いに行きたい。」など希望がある方々がいらっしゃるので希望があれば都合をつけて自宅訪問をしている。</p>	<p>日常的に園庭の散歩や外気浴、希望でドライブを兼ねて自宅や周辺に出かけている。計画を立て、初詣・花見・砂の祭典・水車からくり見物・夏祭り・ソーメン流し・文化祭・外食等に出かけている。家族の協力で外出・外食・墓参などに出かけている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>現金所持は自己責任とし、2名しか持っていない。預り金を職員側で管理しているので、外出の際は持って行き、買い物支援をしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>携帯電話を所持している方は毎日息子さんへ電話を掛けている。「電話を掛けて。」と言われる方は、電話の取次ぎをし、ご家族とゆっくりお話しできるように支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	賑やかなのが好きな方、静かなのが好きな方、認知症の症状等様々で、利用者同士のトラブルが多い。狭い空間のため居心地が悪く、部屋で過ごす方もいる。人間関係等を把握し、トラブルを未然に防ぐように努めている。	共用の空間は、採光や換気・温度・湿度・臭気に配慮し清潔である。文化祭に出展した作品や季節の花が飾っている。畳のコーナーや広いウッドデッキもある。窓からの風景を楽しみながら居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	人間関係を把握し、座席を決めている。台所や窓際、自室でゆっくり過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ってきてもらい、写真、本人が描いた絵を飾るようにしている。また、家具の配置等を検討し、居室内を安全に移動できるように支援している。	居室はエアコン・ベッド・クローゼットが備え付けである。寝具はリースで シーツは週1回交換している。テレビやラジオ・仏壇・家族の写真・ポータブルトイレなど、使い慣れた物や家族の思いが伝わるものが持ち込まれ安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレには表札を掲げ、分かるように工夫している。ホーム内は車椅子や押し車でも移動が出来る、廊下やトイレには手摺りと人感センサーの照明があり、夜間でも安全に移動が出来る。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない